

事業計画書

会社名	豊田工業 株式会社
代表者名	代表取締役 豊田 太郎

1. 会社概要、強み、現在の事業状況や取引先

当社は、昭和**年に〇〇町において個人創業し、△△年に株式会社として組織変更及び本社を現在地に移転し、現在に至っている。創業して以来、一貫して金属部品の切削加工を受注生産で行っている。(会社沿革及び概要)

製品は、小物の少量多品種生産を得意とし、ミクロン単位の精密加工を実施している。各種メディアにおいて、当社の高い技術力が紹介されたこともある。(強み)

豊田市での立地という地の利を生かし、主な取引先は、****株式会社や株式会社***といった自動車メーカーや自動車部品メーカーで、生産設備部品や自動車試作部品に当社の製品が使用されている。(取引先)

2. 立地（設備投資を含む）に至った経緯（問題点や課題など）

現在、当社が抱える課題として、以下の3点が挙げられる。

1点目は、関連会社からの受注増への対応のため、生産能力を強化する必要がある点。2点目は、工作機械の進歩や、新興国企業の技術力向上により、海外が競合相手になってきている点。3点目は、精密製品の品質を保証するためには温度及び湿度の管理ができる検査室での測定が必要であるが、現状ではその環境が整備できていない点である。

3. 立地（設備投資を含む）の概要

既存工場は既存設備で手狭であり、生産能力強化及び製品の品質向上を行うための新たな設備投資ができないため、本社工場と比較的距離の近い土地を取得し、新工場を建設する。新工場の床面積は約***m²であり、既存工場（約***m²）と合わせて約1.5倍となる。業務拡大のための投資であるため、今回の事業により除却する設備はない。

4. 立地（設備投資を含む）によって得られる効果

新工場では大物加工、ワイヤーカット加工、研磨加工を行う。また、温度及び湿度管理が可能な検査室を設け、品質保証レベルを向上させる計画である。既存の本社工場は、引き続き既存受注品の生産を続ける。この事業により、既存受注品の生産は維持したまま、新規で受注できる製品の幅が広がり、会社の売上が向上する見込である。

5. 製造又は研究を行う製品の説明 ※写真やイラスト別途添付のこと

車に搭載するセンサー部品

ステンレスを切削加工して製造する。ステンレスは金属の中でも粘度が高く、加工の難度が高い。当社は、これまで蓄積した技術をもとに、刃物の種類や切削速度の試行を重ね、低価格、高ロット、短納期での製造を実現した。

6. 今後5年間の売上予測（百万円）						
	前期実績	今期予測	3 年期予測	4 年期予測	5 年期予測	6 年期予測
会社全体	600	610	615	675	700	730
該当製品	300	310	315	375	400	430

7. 立地に係る投下固定資産の明細				
資産区分	内容	数量	金額（円）	備考
土地	西町3丁目60		100,000,000	
	造成工事		20,000,000	
			120,000,000	
家屋	工場新築工事		500,000,000	
	電気工事		40,000,000	
			540,000,000	
償却資産	外構工事		50,000,000	
	ワイヤーカット放電加工機	3台	50,000,000	
	5軸マシニングセンタ	1台	30,000,000	
小計③			130,000,000	
合計（①+②+③）			790,000,000	

【造成工事】
造成工事は、家屋ではなく、土地に計上してください。

【家屋注意点】
既存施設解体費・撤去費等は対象外。
造成工事は土地へ、外構工事は償却資産へ振り替えてください。

【外構工事】
外構工事は、家屋ではなく、償却資産に計上してください。

※明細作成上の注意点

- 1 消費税は対象となりません。税抜価格を記入してください。
- 2 土地は、事業開始日の1年前から操業開始日までの間に、登記上の所有者が移ったものが対象となります。
- 3 家屋及び償却資産は、事業開始日以降に契約又は発注したものが対象となります。
- 4 償却資産は、豊田市の固定資産税の対象となる償却資産申告を予定しているものが奨励金の対象となります。
- 5 投下固定資産の明細に記入した、土地・家屋・償却資産に係る積算根拠資料を添付してください。